

県立高等学校教育の在り方検討会議（第4回）会議録【要旨】

- 日 時：令和6年3月26日（火）14時30分～16時30分
- 場 所：岩手県水産会館5階大会議室
- 出席者
 - ・ 会議構成員 資料「出席者名簿」のとおり
 - ・ 事務局（県教育委員会） 資料「出席者名簿」のとおり
- 傍聴者：一般3名、報道4名

○ 会議の概要

1 開会＜進行：赤前 学校企画調整担当課長＞

- ・ 本日の会議は、構成員21名中、現時点で13名の御出席をいただいている。

2 あいさつ ＜佐藤 教育長＞

- ・ 10年15年、さらにその先を見据えた本県の県立高校における教育の在り方に関する本検討会議も第4回を迎えることとなった。
- ・ これまでの3回の会議で、構成員の皆様から頂戴した専門的見地に基づいた今後の高校教育に関する貴重な御意見を踏まえ、事務局において「県立高校の学びの在り方」や「学びの環境整備」など、4つの主題について検討を進めてきた。
- ・ 今般、県教育委員会としての課題認識、課題解決の方向性などについて中間まとめ案として取りまとめしており、本日の会議でそれらについて、忌憚のない御意見を賜りたい。
- ・ 本年5月に県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会を県内6地区8会場で開催し、中間まとめについて、各地区、各界の方々へ御説明をさせていただきながら広く御意見を頂戴して参りたい。

※ 構成員紹介 ＜赤前 学校企画調整担当課長＞

【構成員名簿及び出席者名簿により、構成員及び事務局出席者を紹介】

3 議題

- (1) 中間まとめ（案）について
- (2) 地区別懇談会の実施について
- (3) その他

<石堂 座長>

- ・ 議題（1）の中間まとめ（案）について、事務局から説明をお願いします。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

【会議資料1に基づき説明】

<石堂 座長>

- ・ 議題（1）について、御意見・御質問があれば発言をお願いします。

<佐々木 構成員>

- ・ 35ページに記載の「盛岡ブロックにおける統合新設校に単位制を導入」することの狙いについて伺う。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 現行の高校再編計画において、盛岡南高校と不来方高校を統合し、新たに南昌みらい高校を設置することを計画しており、ここに単位制を導入するものである。
- ・ 両校には体育や芸術、外国語等の多様な学科や系列があり、総合選択制の高校において、より多様な科目の履修を可能とする環境を整えようとするものである。
- ・ また、課題解決の方向性として、大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校への単位制の導入について検討するものである。

<佐々木 構成員>

- ・ 単位制の運用をとおして全県に波及する新しい教育課程を開発すること等も念頭におくと良いのではないか。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 単位制の導入により、教員定数の拡充も見込まれることから、教育課程の開発・運用において様々な工夫ができるものとする。

<上田 構成員>

- ・ 「5つの柱」にある「広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障」ということは岩手県ならではの文言で、非常に素晴らしい。
- ・ 8ページ「専門高校」の課題解決の方向性に記載されている「より広域での再編」については、宮沢賢治ゆかりの花巻農業高校等各校の特色があり、大事にしていくべきと考える。
- ・ 21ページにある「1学年1学級の学校」の取扱いにおいて、入学者数が2年連続で20人以下となった場合に統合することに関しては、現状の人口減少を踏まえると、柔軟に対応する必要があると考える。地域において必要とされる学校の存続について検討していただきたい。
- ・ 36ページ「県政課題等に対応した人材育成の取組」において、課題解決の方向性として医系等分野の専門職を目指すコースの設置についての記載があるが、医系であろうと、他のサイエンスの分野であろうと、高校の勉強はさほど変わらないはずで、医系等サイエンス分野の様々な進路に対応した勉強をできると記載した方が良いのではないか。
- ・ 確かに岩手県は医師が不足しており、医師確保の必要性について認識しているところであるが、進路に応じて高校の学習を特化することによって、岩手県に残る医師が増えると言えるのか。
- ・ 人口減少が進む岩手県においては医師数が増加したとしても医師に対する需要に変化は少ないのではないか。現在医師数が少ないからといって医師の養成が過ぎると、20年30年後に需給のバランスが悪くなることも考えられる。コースを特化するのではなく、広げるという考えがあつて良い。
- ・ 37ページの「中高一貫教育」について、一関第一高校の成果について明確にしたことは非常に素晴らしい。
- ・ 課題解決の方向性の具体として、6地区について中高一貫教育校の設置を検討してもらいたい。
- ・ 岩手においても、都会と同様の人材育成は可能であるとする。昨今の野球において示されており、勉強の面においても可能であろう。勉強したい子どもがいれば、その子どもを育てることが我々の務めであり、先取り学習等都会が優位となっている教育環境について岩手県でも実践することを考える必要がある。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 「岩手県ならではの」という点においては、県立高校では地元自治体等から様々な御支援をいただきながら、特色ある学校づくりに取り組んでおり、県教育委員会では各学校の教育方針に資する全県共通の指針であるグランドデザインを策定し、各校の取組を一層推進しようと努めている。
- ・ 1学年1学級の学校の取扱いにおける具体については、次期再編計画策定の際に検討することとしており、今後も進むことが見込まれる少子化等の要因と合わせ、慎重に検討する。
- ・ 県政課題に対応した人材の育成について、医師確保が本県における大きな課題の一つであり、特色あるコースの設置等による対応の必要性を認識している。
- ・ 一方、医師だけではなく、様々な専門人材を育てていくことの重要性については御指摘のとおりであり、難関大等の講座の開設等により対応している。また、各校においては通常の教育課程の中で理数や英語等の学びの充実を図っている。
- ・ 課題解決の方向性において専門職を目指すコースの設置に係る象徴的なものとして、「医系」と記載するものであり、探究的な学びや文理横断的な学びに取り組むコースなど、多様な進路に対応することも想定している。
- ・ 中高一貫教育校の各地区への設置の可能性については、中学校卒業予定者数の推移や、各地区の義務教育への影響等を十分見極める必要がある、当検討会議や各地区における懇談会等において広く御意見を伺いながら、様々な検証を行っていくこととしている。
- ・ これまで、新しいタイプの中高一貫教育校、すなわち、中等教育学校の導入や中高一貫教育校の市町村立への移行に関する事等、また、現行の中高一貫教育校について先取り教育や学級編制等において特色ある教育の在り方等について様々な御意見を頂戴しており、引き続き検討を進めていく。

<上田 構成員>

- ・ 36 ページの課題解決の方向性に関しては、今の回答のように記載することで、医系等のみを想定しているものではないと認識できると考える。
- ・ 中高一貫教育については、教育の機会を保障するという観点から、どの地域に住む子どもであっても機会が与えられるべきと考える。
- ・ 課題解決の方向性には、検討する内容について「今後設置することも含めて検討する」等の理解しやすい文言にしていきたい。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 検討させていただく。

<上田 構成員>

- ・ どこまで踏み込んだ内容とするかは別として、理解しやすい記載をお願いしたい。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 表現等について検討させていただく。

<石堂 座長>

- ・ 理解しやすい表現について検討いただきたい。

<中島 構成員>

- ・ 36 ページ、課題解決の方向性の冒頭にある「県政課題等に対応した人材の育成」とあるが、「地域課題」とした方が理解しやすいと考える。
- ・ また、「医系等分野」とあるが、理系人材の育成に特化するという認識につながりやすく、文系人材の育成についても記載があると良いのではないか。例えば「地域のリーダーを育てる」「起業家を育てる」等があると分かりやすい。経済界ではスタートアップ企業が伸びており、岩手でも起業しやすい風土を創ろうとしていると伺っており、そのような記述を盛り込んでいただきたい。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 県政課題等への対応として「医系等分野の専門職を目指すコース」について記載し、専門高校に係る課題解決の方向性に「産業の人材育成」について記載する等整理している。
- ・ 全体について改めて検討させていただく。

<石堂 座長>

- ・ 表現の仕方について検討いただきたい。
- ・ 今後、地区別懇談会の開催等において内容に関して誤解のないように対応いただきたい。

<鈴木 構成員>

- ・ 以前にも申し上げているとおり、中学校卒業者数が減少する中であって、高校再編そのものに反対しているものではない。しかしながら、今回の資料では、依然として従来からの小規模校の統合が感じられる。
- ・ 24 ページ「地区割と学校配置」の課題解決の方向性に「交通網の発達や生徒の通学の利便性を考慮し」とあるが、広い県土において通学に要する時間等条件は地域ごとに大きく異なっている。
- ・ 公共交通機関のみならず、高速道路、鉄道も整備されていない地域もあり、そのような地域にも配慮した内容にしていきたい。
- ・ また、22 ページ「学校規模」の課題解決の方向性にある「学校の最低規模は1 学年2 学級とする」ことについて同じ認識であり、そのような再編計画を考えていただきたい。
- ・ 我々は様々な機会において国に対して一極集中の是正を求めており、岩手県の高校再編計画においても都市部への一極集中とならないようにしてもらいたい。
- ・ 県内のどこであれ、同じような高校教育が受けられる環境を創っていただくことと、小規模校は統合するということではなく、岩手県の高校再編が、人口減少で悩む日本全国、各地域・地方のモデルとなるような計画を創っていただきたいと考える。
- ・ 中間まとめ案には「国の動向を注視」という表現が再三出ているが、岩手の実情は我々が最も知るものであり、国に先駆けて岩手が実践するようにしてもらいたい。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 1 学年2 学級として教育の質を確保することについては、前回皆様と意見の一致を見ていると認識している。その上で、特例校についても記載した。
- ・ 人口減少という大きな課題を抱える中で、どのような教育環境を整備できるのか、どのように子どもの教育環境を守るのかということについて、皆様のお知恵を頂戴しながら慎重に検討していきたい。

- ・ また、「国に先駆けること」に関して、制度や財源の観点から国の動向を踏まえる必要があるところから記載しているものであり、一方、岩手県の人口減少の度合いが全国に比して進んでいる実態を踏まえ、実践可能な取組を研究していくこととする。

<鈴木 構成員>

- ・ 葛巻高校においては、県や地元の皆様の御理解をいただきながら、山村留学制度等の活用により1学年2学級を維持しており、2学級であるがゆえに質が保たれていると認識している。
- ・ 今年は55人の卒業生がおり、15人程度の国公立大学進学等の進路・進学実績も2学級だからこそと認識している。
- ・ そのような我々の取組を現地で見ていただいて再編計画を御検討いただきたいと考える。

<田村 構成員>

- ・ 中間まとめ案を拝読し、少子化への対応が大きな視点になっていくのだろうと考える。
- ・ そのような現状において、教育の質の保証と機会の保障を実現する上で連携・協働の重要性を認識した。
- ・ 4ページ「高校の特色化・魅力化」のコミュニティ・スクール等に関する国の方針が示されているが、下の表に対応させる形で岩手県の実績をアピールして良いのではないかと。
- ・ コミュニティ・スクールには地域のハブとしての機能があるものと捉えており、公立高校におけるコミュニティ・スクールの取組に言及して良いと考える。
- ・ 次に23ページにある「ブロック」と「地区」、「地域」が混在しているところから、言葉を整理する必要があると考える。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 御指摘いただいた2点について検討していく。

<高橋 構成員>

- ・ 高校教育に対する期待が非常に大きいと改めて感じている。
- ・ 理系人材、医療系人材、起業家人材等の育成等様々求められているが、それらを成していくのは一つの高校である。求めるのであれば、高校に相応の資源をいただきたい。それは人的な資源であったり、施設的な資源であったりなど、様々な取組ができる環境を保障していただくことが必要と考える。
- ・ 19ページ「定時制・通信制高校」に関して、現在通信制課程に在籍する生徒が増えてきており、特にも私立の広域通信制高校に生徒が集まっているという状況を鑑みると、岩手県の公立高校が従来通りの対応で良いのかという視点を持つ必要があると考える。
- ・ また、不登校特例校に類する高校の必要性等の議論も出てきて良いのではないかと。
- ・ 33ページ「特別な支援を要する生徒への対応」に関して、不登校の状況について記載があることから、タイトルも「生徒等」と修正する必要があるのではないかと。さらに、不登校については、先ほど申し上げた通信制や不登校特例校の箇所においても考えて良いのではないかと。
- ・ 36ページ「県政課題等に対応した人材育成の取組」に関して、平成24、25年度と比べて難関大学進学者が右肩下がりで減少している。その要因として少子化の影響が挙げられるところであるが、少子化が進むということは、上位から下位まで全ての成績層において、等しく減少していくと考えられるとともに、この傾向は継続するものと捉えて良いであろう。
- ・ 岩手県から専門職を担う資質を持った生徒が減少していくことに繋がるものであり、高校教育だけの問題ではなくなるのかもしれないが、子ども一人ひとりを大事にしながら全体的な底上げを図っていかないと、将来、岩手や日本が必要とする人材を生み出せなくなっていくのではないかと不安を抱かせるような資料と捉えている。
- ・ このことから、高校教育において底上げを図るための方策を考えることと同時に、岩手県全体としてあらゆる年代において底上げを図るという視点を持ちつつ、その延長線上に高校教育が位置するという発想で計画を検討していただきたい。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 不登校の現状への対応を検討していかなければならないと認識している。
- ・ また、難関大学進学者数が、人口減少に比して、大きな割合で減少しているという印象を持っており、大きな課題と認識している。
- ・ 全県的な視点で、人材育成の体制の構築に取り組んでいくことの重要性を再度認識しており、様々な方策を検討していく。

<石堂 座長>

- ・ ただ今の御意見は、検討内容を具体化する段階において生かしていかなければならないと考える。
- ・ 「高校だけの問題ではない」というところは、大学でも同様の問題意識があり、中学校等も含め、県全体で考えていくべきものであり、非常に難しいものであるが底上げについては考えてもらいたい。

<菅野 構成員>

- ・ 5ページ以降の普通高校や専門高校、総合学科高校の現状に記載されているDXハイスクールについては、国の補正予算が成立したことを受けたものと捉えられるが、普通高校の課題解決の方向性に記載されている「DXハイスクールの導入等も検討」することについては、国の事業実施に影響を受けるものであることから時点修正もありうることを想定しておきたい。
- ・ 19ページ「定時制・通信制高校」の課題に関しては、課題解決の方向性に記載しても良いのではないか。また、全日制・定時制課程における通信教育の活用について国が制度化していることを踏まえ、岩手県としても積極的に検討して良いのではないかと考える。
- ・ 34ページ「普通科改革」に関して、来年度大槌高校は地域社会に関する学科を設置することとなった。一方、課題解決の方向性に「学際領域に関する学科等の設置」と明確に記載すべきかどうかは考える余地があると考えます。
- ・ 特色ある学科の設置が文部科学省の狙いであっても、このように例示をしてしまうと倣ってしまいかねないということ。重要なことは岩手県、その学校にとってどのような学科が必要であるかということであり、記載の仕方に工夫があっても良いのではないかと考える。
- ・ また、新しい学科や学校の設置についての議論が当会議にも挙がっており、この件は県教委が主導していくべきことであり、新たな会議体を設置する等踏み込んだ取組を行っていただきたい。
- ・ 高橋会長から資源のお話があり、学校にとって最も重要な資源は人であるという認識に基づくと、財源の必要性に行きつく。神奈川県鎌倉市や埼玉県戸田市では、教育委員会が独自にスクールコラボファンドを組んで資金を集めている。
- ・ 現在は経済産業省等において学校独自でファンドを設けるという議論も始まっており、今後10年を見据えると、学校関係者が資源を獲得するという視点も持ち込んで良いのではないかと考える。市町村ではふるさと納税による資金を教育に投資しており、岩手県としても資源、資金の獲得について考えて良いのではないかと考える。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ DXハイスクールについては今後の採択の状況等を踏まえて、必要に応じて文言を見直していきたい。また、定時制・通信制に関する御指摘に対しても検討を進める。
- ・ 特色ある学科の設置等について、例示に倣うのではなく、岩手県にとって、その学校にとっての特色ある学科とはどのようなものであるかを考える契機となる記載について検討する。
- ・ 会議体の設置に関しては、当会議と並行して進めることは困難であると認識している。各取組の実施の際に、その必要性等も見極めて判断していきたい。
- ・ スクールコラボファンド等の資金獲得に関しては、今後の研究課題とする。

<石堂 座長>

- ・ 財源・資金の件等は今後、検討するというご意見をお願いしたい。
- ・ 他にあるか。中間まとめであり、多くの方から御意見を伺いたいと考える。
- ・ 川上構成員から御意見をお願いしたい。

<川上 構成員>

- ・ PTA役員としての視察等において生徒の成果発表を拝見することがあり、社会と繋がり、探究的に学ぶことが進んでいるという。社会に出て地域課題等を我々大人にはない発想で考える等、貴重な経験をする探究的な学びを強調して良いと思う。

<石堂 座長>

- ・ 今の御意見も参考にさせていただきたい。

<佐々木 構成員>

- ・ 1ページの表にあるように子どもの数が加速度的に減少しており、将来自治体や地域を維持できない状況も考えられる。
- ・ 教員養成大学に在籍する自分としては教員の需給に興味があり、15歳人口の減少とともに22歳人口の減少も危惧している。
- ・ 22歳人口の減少を補うという側面を持っていた高齢者の活用や女性の就業等も限界が近づいてい

る現状である。

- ・ さらに、新採用教員の質の二極分化が顕在化しており、優秀な教員の確保という視点も必要である
と考える。
- ・ これからは少ない教員数であっても充実した教育実践を行うためのカリキュラムや教育方法の開発
等を検討していかなければならない。
- ・ 7ページ「普通高校」の課題解決の方向性にDXハイスクールへの言及があるが、デジタル人材の
不足やその確保は普通高校だけではなく農業や工業等全ての高校で求められている。
- ・ また、デジタル人材を育成する教員の確保も課題として挙げられるとともに、DXハイスクールの
指定を受ける高校は教員研修の場ともなっていくべきと考える。
- ・ 中島構成員の御意見にあった起業家の育成も同様に、どのような学科・高校であれ、求められるも
のであろう。
- ・ 36 ページに関連して地域課題として医師の確保対策を進めようとするときに、医歯薬コース等を
設定し県内幅広い地域において養成していくのか、あるいは一関第一高校の中高一貫教育校のように、
一校に特化して行うのか考える必要がある。
- ・ 教育の機会均等の観点のお話もあったが、38 ページの図によると一関第一は医師の養成に特化し
ているように見てとれる。表には盛岡の高校のデータが掲載されておらず、盛岡地区における医師養
成の対策がどうなっているのか不明であるが、明確に示されていることとして一関第一高校がコンス
タントに医師を養成しているということ。
- ・ 一関第一高校はスクール・ミッションとして医師を養成するということを明確に掲げているのでは
ないか。
- ・ また、難関大学への進学者数も長期的に減少しており、平成 24 年度と令和 4 年度を比較すると、
ほぼ半減している。この要因は東北大学への進学が難しくなっていることと推察する。
- ・ いわゆる進学校は国公立大学への進学者数を指標として取り組んでいるが、少子化が進む現在にお
いて、このような指標はそもそも適切であるのか考えるべきであろう。
- ・ その指標を掲げるとしてもスクール・ミッションで明確に位置付ける必要があり、医学コースの設
置にしても、国公立大学への進学者数を指標とするにしても、明確な位置付けが重要であるとする。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 各校の取組の実効性を高めるためにスクール・ミッションで明確に位置付けること、また、各校の
取組と県として推進するコースの設置等に関連付けながら実施していきたい。
- ・ 起業家やデジタル人材の育成の必要性、また、教員の確保が難しくなってきていること等、様々な
方策を検討していきたい。

<上田 構成員>

- ・ 難関大学への進学者数の減少に関して、人口減少が要因であるとのことであるが、減少しているの
は岩手県だけではない。
- ・ 東北大学は首都圏からの進学者が増えていて、宮城県の進学者も減少しているという。この要因は
何か。

<中村 高校教育課長>

- ・ 東北大学に関しては、首都圏からの流入が増えており、それに応じて難易度が上がっていると見え
られる。

<石堂 座長>

- ・ 他に御意見があれば何う。中屋構成員からお願いしたい。

<中屋 構成員>

- ・ 33 ページの「特別な支援を要する生徒への対応」の課題解決の方向性に高校と特別支援学校との連
携について記載があるが、何か具体例を挙げていただきたい。
- ・ また、8 ページ以降の専門高校に関して生徒のニーズという記載があるが、これは中学生も含まれ
ているものと捉えられる。課題解決の方向性に生徒のニーズをどのように創っていくのかという視点
が含まれていれば良いのではないかと考える。これは、中学校側の課題であるとも受け止めている。
- ・ 専門高校への進学に関しては、子どもたちに地域の産業構造や産業の魅力、必要性等を伝えていく
キャリア教育の部分で高校と中学校が連携していくことの重要性を考えている。

<嶋野 構成員>

- ・ 27 ページに6 地区の区割りの地図がある。ここに特別支援学校も掲載していただき感謝する。

- ・ 難関大学への進学や地域で働くこと等、あらゆる希望に対して、各地区において学びを保障していくことが重要であり、6地区の区割りはわかりやすく整理されているのではないかと。
- ・ 36ページの県政課題に関しては、医学部医学科だけではなく、サイエンスや保育、看護師等様々な仕事を志す生徒に対して、学びの質を保証する岩手県の高校教育であってほしい。

<石堂 座長>

- ・ 近藤構成員から御意見を伺いたい。

<近藤 構成員>

- ・ 33ページの特別な支援を要する生徒への対応に関して、第2回の検討会議においてインクルーシブな学校運営のモデルを岩手でも進めてほしいと意見を述べた。
- ・ 今回の記載は、特別支援学校における教員の対応の仕方を県立高校にも取り入れようという内容が中心であり、ソフト面を充実させようという意図を感じる。
- ・ 希望しているのは、特別支援学校と高校を一体的に運営するというハード面の充実を実現してほしいところであり、体制の構築等の観点を強く打ち出してほしい。
- ・ 県教育委員会の経営計画においても、二戸地区における特別支援学校の整備については、本県におけるインクルーシブな学校運営のモデルとなるよう取り組むという記載もある。
- ・ 繰り返しになるが、ソフトというよりはハード、体制面におけるインクルーシブ教育の推進について考えていただきたい。

<石堂 座長>

- ・ 今の御意見も踏まえ、検討を進めてほしい。
- ・ 菊池構成員はいかがか。

<菊池 構成員>

- ・ 代理出席である。中間まとめ案を拝読し、高校教育の基本的な考え方から始まり、内容がまとまっているという印象を持った。
- ・ 今後、内容の実施に当たっては、スクール・ミッションとスクール・ポリシーが非常に重要になってくると考える。その学校の特色・魅力をミッションとポリシーでどのように表現していくのかというところが具体の部分になってくると考える。
- ・ この後、地区別懇談会を開催するにあたり、一つ例示があると参加者の理解が深まると考える。
- ・ また、遠隔教育に関して単位認定をどのように行っているのか伺う。
- ・ 通年実施によるものか、期間を限定する等補助的な活用による単位認定であるのか、通年実施によるものであれば、人材の確保という点で一つの方策になり得るものではないか。

<中村 高校教育課長>

- ・ 遠隔教育について、通年で実施して単位を認定しているものである。
- ・ 配信拠点において教員が実施する授業を、受信する学校で生徒が受けるという形態である。

<菊池 構成員>

- ・ そうであれば、今後は学校間による遠隔授業の実施という関係性も出てくることも考えられる。
- ・ 総合学科においては、学びの系列に応じて定員が定まることとなり、ICTツールを活用することで学びの多様性を担保するとともに、多様性を強みとしていけるのではないかと。

<石堂 座長>

- ・ こうした御意見を参考に、検討を進めてほしい。

<嶋野 構成員>

- ・ 39ページの最下部「学級編成」とあり、「編制」と「編成」の表記は、どのように解釈するのか。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 学校内部を組織することとして「学級編制」を使い、生徒個々を集めて統一ある組織体とすることとして「学級編成」を使い分けている。

<石堂 座長>

- ・ 参加している構成員全員から御意見を伺いたい。

<中嶋 構成員>

- ・ 県立高等学校の在り方として、全体を俯瞰しての記載となっており、非常によくまとまっている。
- ・ 今後、地区別懇談会を開催するとなると、地区ごとに課題は異なることから、多様な意見が出てくると想像する。このような観点から、県政課題ではなく地域課題と記載する方が良いと考える。

- ・ 各地区では、当該地区の現状を踏まえた説明を期待するものと思う。懇談会の進行について配慮が必要ではないか。
- ・ 総合学科や校舎制が、これからの特色ある高校づくりには欠かせないものと考えており、県北地区の北桜高校においては、校舎制等の経過を検証していただきたい。

<石堂 座長>

- ・ 地区別懇談会の開催に向けて重要な視点をいただいた。
- ・ 事務局は留意して開催してもらいたい。
- ・ ここまでいただいた御意見を反映し、事務局には中間のまとめをお願いする。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 本日いただいた御意見について事務局で検討し、地区別懇談会開催までに中間まとめとして取りまとめる。
- ・ また、本日いただいた御意見と併せ、地区別懇談会における御意見を長期ビジョンに反映し、7月以降の検討会議に提案したい。

<石堂 座長>

- ・ 今後の取りまとめについて事務局をお願いする。
- ・ 議題（2）の地区別懇談会について事務局から説明をお願いする

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 資料のとおり、県内6地区8会場で地区別懇談会を開催する予定である。
- ・ 検討会議の構成員にはオブザーバーとして参加をお願いする。

<石堂 座長>

- ・ 御意見や御質問はあるか。
- ・ 構成員の参加について事務局には日程の調整をお願いする。
- ・ 議題（3）のその他について事務局から何かあるか。

<安齊 特命参事兼高校改革課長>

- ・ 次回の検討会議は、地区別懇談会の後、7月の開催を予定している。

<石堂 座長>

- ・ 構成員から御意見、御質問はあるか。
- ・ 無いようなので、以上で協議を終了する。

<赤前 学校企画調整担当課長>

- ・ 石堂座長に議事の進行をいただき感謝申し上げる。
- ・ ここで、佐藤教育長より御挨拶を申し上げる。

<佐藤 教育長>

- ・ 長時間にわたり、熱心に御議論いただき感謝申し上げる。
- ・ 多くの貴重な御意見を頂戴した。中間まとめに反映できるよう検討を進める。
- ・ また、5月から6地区8会場で地区別懇談会を開催する予定であり、それぞれの地区の状況等を確認して参りたい。
- ・ 今年度においては、今回が一区切りとなり、ここで定期人事異動における事務局の異動について報告させていただくとともに、4月から新たなメンバーで担当させていただく。
- ・ 今後とも、本県の教育振興のために一層の御支援を賜りたく、お願い申し上げる。

4 閉会

<赤前 学校企画調整担当課長>

- ・ 以上をもって、第4回県立高等学校教育の在り方検討会議を閉会する。

出席者名簿

【会議構成員】

(敬称略・順不同)

No.	氏名	所属・職名	備考
1	石堂 淳	岩手県立大学理事・名誉教授	
2	嶋野 重行	盛岡大学短期大学部教授	
3	田村 忠	岩手大学教育学研究科特命教授	
4	佐々木 幸寿	東京学芸大学理事・副学長・教職大学院長	
5	高橋 一佳	岩手県高等学校長協会長 岩手県立盛岡第一高等学校長	
6	近藤 健一	岩手県特別支援学校連絡協議会長 岩手県立盛岡視覚支援学校長	
7	中屋 豊	岩手県中学校長会長 盛岡市立厨川中学校長	
8	川上 博基	岩手県高等学校PTA連合会長	
9	上田 東一	岩手県市長会 花巻市長	代理
10	鈴木 重男	岩手県町村会長 葛巻町長	
11	菊池 広親	岩手県市町村教育委員会協議会監事 矢巾町教育委員会教育長	代理
12	中嶋 敦	一戸町教育委員会教育長	
13	中島 勝志	一般社団法人岩手経済同友会 専務理事・事務局長	代理
14	菅野 祐太	認定特定NPOカタリバ ディレクター 兵庫教育大学大学院准教授	

【県教委事務局等】

No.	氏 名	所 属 ・ 職 名	備考
1	佐 藤 一 男	教育長	
2	菊 池 芳 彦	教育局長	
3	坂 本 美知治	教育次長兼学校教育室長	
4	古 川 敦	教育企画室予算財務課長	
5	佐々木 義 秋	教育企画室学校施設課長	
6	駒 込 武 志	教職員課首席経営指導主事兼 県立学校人事課長	
7	赤 前 大 輔	学校教育室学校企画調整担当課長	
8	安 部 広 一	学校教育室首席指導主事兼 学力向上担当課長	
9	武 藤 美由紀	学校教育室首席指導主事兼 義務教育課長	
10	中 村 智 和	学校教育室首席指導主事兼 高校教育課長	
11	多 田 拓 章	学校教育室首席指導主事兼	
12	最 上 一 郎	学校教育室首席指導主事兼	
13	千 田 幸 喜	学校教育室首席指導主事兼 生徒指導課長	
14	安 齊 和 男	学校教育室特命参事兼高校改革課長	
15	小野寺 一 浩	学校教育室高校改革担当主任指導主事	
16	中 田 裕 治	学校教育室高校改革担当主任指導主事	
17	村 上 浩 紀	学校教育室高校改革担当指導主事	
18	寺長根 一 真	学校教育室高校改革担当指導主事	
19	似田貝 和 浩	学校教育室高校改革担当指導主事	
20	木次谷 大 輔	学校教育室高校改革担当主任	